

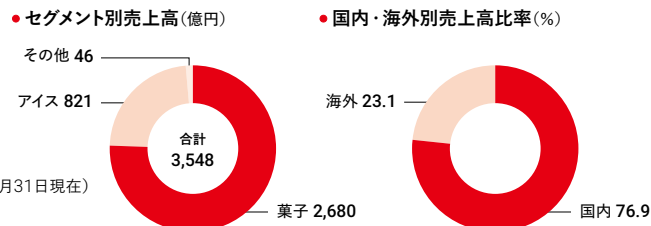
報告内容について

編集方針	サステナビリティレポート2026(詳細版)は、すべてのステークホルダーの皆さまにサステナビリティへの考え方や取り組みをご理解いただくことを目的に、2025年度の活動を中心に掲載しています。また、下記のガイドラインを参考に編集しています。一部の過去情報は、より妥当な集計方法を採用し見直しを行っています。
参考ガイドライン	GRIスタンダード、SASB対照表はP71-73に掲載しています。
対象期間	2025年度(2025年4月～2026年3月) 一部のグループ会社については、決算期に合わせて2025年1月～12月を対象としています。また、一部の報告内容には過去や直近の情報を含んでいます。
対象範囲	原則として、当社およびその連結グループ会社を対象としています。Dari K株式会社は、2026年4月1日付で株式会社ロッテに吸収合併されました。2021年度中に連結グループ会社となった株式会社銀座コージーコーナーについては、2022年度実績より対象にしていますが、目標設定に対する基準年がある場合には、遡って過去情報を見直し、対象としています。また、情報を十分に把握できていない場合は、報告の都度、対象範囲を明示しています。
報告年月	2026年9月

会社情報

商号	株式会社ロッテ(LOTTE CO., LTD.)
本社所在地	東京都新宿区西新宿3-20-1
創業	1948年6月
資本金	2億1,700万円
決算期	3月31日
従業員数	2,240名 6,976名(海外拠点・グループ会社含む) (2026年3月31日現在、海外および旧Dari K株式会社は2025年12月31日現在)

2025年度業績



グループ会社

親会社

株式会社ロッテホールディングス

国内

株式会社メリーチョコレートカンパニー

株式会社銀座コージーコーナー

海外

THAI LOTTE CO., LTD. (タイ)

PT. LOTTE INDONESIA (インドネシア)

LOTTE VIETNAM CO., LTD. (ベトナム)

台湾樂天製菓 (台湾)

LOTTE Wedel sp. z o.o. (ポーランド)

未来財務情報開示のご案内

WEBサイトにも各種情報を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

ロッテHP サステナビリティサイト

<https://www.lotte.co.jp/corporate/sustainability/>

サステナビリティレポート2026

<https://www.lotte.co.jp/corporate/sustainability/report.html>

サステナビリティレポート
2026(詳細版)

Contents

Introduction

- 01 | 報告内容について／会社情報／目次
- 02 | 私たちのロッテ ミライチャレンジ2048
- 04 | トップメッセージ
- 06 | 私たちが考える「しあわせな未来」
- 07 | しあわせな未来への道筋
- 08 | 事業機会の創出と事業リスクの低減の両面からマテリアリティを整理

サステナビリティマネジメント

- 10 | サステナビリティ経営の推進
- 11 | 外部イニシアチブとの連携
- 12 | 有識者ダイアログ

活動報告

- 19 | 環境 Environment
- 34 | 環境データ
- 36 | 社会 Society
- 62 | 社会データ
- 66 | 企業統治 Governance

GRI・SASB対照表

- 71 | GRI対照表
- 73 | SASB対照表



私たちの ロツテ ミライ チャレンジ 2048

創業100周年までに、未来のために実現したいこと

株式会社ロツテは2048年に創業100周年を迎えます。

現在も世界が激変する中、

今後訪れる不確実な未来で私たちはどうあるべきか、

どうなっていないと生き残れないか、

そして、どうなりたいかを真剣に議論しました。

議論した結果から

創業100周年の私たちのありたい姿を、

パーパスを起点とした

3つのサステナビリティビジョンとして整理しました。

SCM本部
物流部 部長
山本 豊

ロツテホールディングス
法務部法務グループ
法務チーム
小柳 菜穂

マーケティング本部
第一ブランド戦略部
ガーナブランド課 主査
飯田 一輝

営業本部 業務部
事務サポート課
阿部 早苗



お客様の選択がしあわせは未来に
つながるようにブランドを進化させる

お客様が私たちの製品やサービスを選択する、
その積み重ねがお客様のしあわせな未来につながっていく、
そんな未来を実現するために、新たな価値を探索しながら、
バリューチェーンに関わるすべてを持続可能なものに進化させていきます。



中央研究所
噛むこと研究部 主査
川村 淳

生産本部 生産戦略部
生産戦略課 主査
金丸 由布子



人と人をつなぎ
持続可能な地球を実現する

私たちのビジネスは、私たちだけで完結するものではなく、
バリューチェーンを構成する多くのステークホルダーと連携しています。
私たちが主体的にステークホルダーをつなぎ、巻き込み、
互いに学びながら持続可能なビジネスへの転換を一緒に目指していきます。

多様な人財が集い、独創的な
アイデアを生み出す会社になる

2048年の未来でもイノベーションによる成長を続けるために、
多様な人財が集い、思う存分力を発揮してもらえる会社でなくてはいいま
せん。ロツテで働きたい、ロツテで働いてよかったと思ってもらえるよう、
私たちは進化し続けます。



ロツテホールディングス
人事部 労政グループ
労務厚生チーム リーダー
洲崎 彩



ロッテ ミライ チャレンジ 2048

創業100周年に向けた 取り組みハイライト

2048
創業100周年

2024年度よりLOTTE Family Dayを開催

本社および浦和工場にて、ロッテグループの従業員を支える家族やパートナーへの感謝の想いを込めて2024年度より毎年LOTTE Family Dayを開催しています。毎年、内容を拡充しながら継続しています。



環境に配慮したパッケージへアップデート

2024年度に、チョコパイパーティーパック、カスタードケーキパーティーパック、トッポ袋のパッケージに使用するプラスチック量を削減しました。これにより、3製品合わせてプラスチック使用量を年間約88.7トン*削減しました。今後も環境に配慮したパッケージへのアップデートを行っていきます。

* 2025年度の調達実績をもとに試算。



ロッテ ミライチャレンジ2048策定

サステナビリティビジョンや目標の検討にあたっては、実際にその時代を支える世代の声が重要と考え、若手から中堅の社員で構成したプロジェクトチームを中心に議論を進めました。

2024

2023

「噛むこと」の普及による 社会的インパクト推計を発表

2025年10月に、ガムを使用した口腔健康プログラムによって期待される一人当たりの介護費抑制効果は年間約4.2万円で、全国の65歳以上の要介護でない高齢者全員が本プログラムに参加すれば、最大で年間約1.2兆円の介護費を抑制できる可能性があることを発表しました。



口腔健康プログラムとは、1日3回、2.5か月のガム咀嚼を含むお口のエクササイズと1か月に1回の介護予防教室を組み合わせた健康プログラムのこと。
愛知県豊田市の実証事業結果を全国の高齢者に拡大推計し、オールフレイルおよびフレイルの予防・改善に伴う介護費抑制効果を試算(ロッテ調べ)。

2025

国内外の工場に 太陽光発電設備を設置

脱炭素の実現に向け、太陽光発電設備の設置を進めています。2025年度には新たに、滋賀工場に約450kW、プカシ工場(インドネシア)に約730kWの発電容量を持つ設備を設置しました。



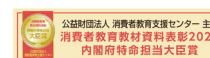
カカオ豆調達地の 森林モニタリング開始

スマートフォンのGPSアプリを用いてカカオ農園をマッピングし、衛星情報などを用いて森林減少への関与を確認するモニタリングを開始しました。リスクが高い農園については、サプライヤーと事実関係を確認し、状況改善に向けた対応策を検討していきます。



「エシカル消費」をテーマとした食育教材が 「内閣府特命担当大臣賞」を受賞

中学校を対象にした教育支援プログラム「あなたの『選ぶ』から創るしあわせな未来」が消費者教育支援センターが主催する「消費者教育教材資料表彰2025」において、最も優れた教材として「内閣府特命担当大臣賞(企業・業界団体部門)」を受賞しました。



TOP MESSAGE



「お口の恋人」には、
「永遠に愛される存在になるために、
これから先も『愛』を届ける」という
強い想いが込められています

代表取締役社長執行役員

中島 英樹



©L/KMP

有事へのレジリエンスとしての 「持続可能な調達」

● ● ●

昨今、事業環境の不確実性はますます高まっています。特に足元で起きているホルムズ海峡をめぐる地政学的な緊張は、ナフサの供給不安や価格の高騰を引き起こし、様々な産業のサプライチェーンに多大な影響を及ぼしており、当社も例外ではありません。このような激動の時代において、当社が推進している「持続可能な調達」の取り組みは、人権や環境におけるリスク対策のみならず、菓子やアイスを安定的にお客様にお届けし続けるための「有事へのレジリエンス」であると再定義しています。

主力事業であるチョコレートに欠かせないカカオ豆については、西アフリカでの不作等に伴う歴史的な相場高騰に見舞われました。しかし、私たちがこれまで長年続けてきた児童労働の撤廃、森林減少の防止、そして生産性を高めるための営農指導といった支援活動を行ってきた地域では、不作の影響が相対的に少なかったという現地からの報告もあります。これはまさに、私たちが取り組んできたサステナビリティ活動が、有事のレジリエンスとして有効であったという確かな手応えです。今後はこの支援地域をさらに拡大させるとともに、調達地の多角化によるリスク分散なども進めてまいります。また、冒頭で触れたナフサの供給不安に対しても、現在検討を進めているパッケージの脱プラスチックや環境配慮型素材への移行が、結果として化石資源への依存を減らし、地政学リスクへの対応につながると考えています。

これらの「持続可能な調達」の取り組みは、カカオ豆以外の原材料にも拡大しつつあります。「雪見だいふく」に使用しているもち米や、「のど飴」に使用しているカリン、ガムに使用する天然チクルなどの原材料において、生産地の抱える課題に、その地域とともに取り組むプロジェクトも進めています。これらの取り組みは、不確実な外部環境の変化に左右されない強靱な事業基盤の構築に直結するものです。私たちは今後も歩みを止めることなく、この取り組みを加速させてまいります。

「噛むこと」の価値を探索し 社会へ拡げていく



私たちのコーポレートメッセージである「お口の恋人」には、「永遠に愛される存在になるために、これから先も『愛』を届ける」という強い想いが込められています。2023年に策定したパーパスが「しあわせな未来をつくる。」という言葉で結ばれているのも、この想いを体現するものです。「しあわせな未来」という言葉には、持続可能な地球と社会、そしてそこで暮らす人々の豊かなくらしに貢献するという私たちの決意が表れています。

そして、そのための最もロッチらしいアプローチが「噛むこと」の普及による人々の心身の健康への貢献です。昨年、当社はこれまでの研究成果をもとに、ガムを使用した口腔健康プログラムが将来的な介護費の抑制に寄与するという推計結果を発表しました。「噛むこと」の価値を探索し社会へ拡げていくことは、人々の健康寿命を延ばし、社会課題解決に貢献するという大きな社会的意義を持っています。実は私自身も90歳になる両親の健康を願い、いつまでもお口の健康を維持し続けてほしいという想いから、定期的にガムを送り続けています。

こうした「噛むこと」の価値を社会へ実装していくため、今年から「チューイング改革プロジェクト」を部門横断で発足させました。関連する知見やエビデンスを一元化し、社内外へその価値を積極的に発信していく活動を進めていきます。「噛むこと」の重要性は多くの企業や団体から共感を得ているほか、市民の健康保持増進を目指す20以上の自治体とも連携協定を締結しています。「噛むこと」の普及による人々の心身の健康への貢献を、会社全体で一層力強く推進していきたいと考えています。

誰もが自分らしく能力を発揮できる 組織風土づくり



これらの取り組みを実行し、持続可能な成長を実現するための最大の推進力は「人財」にほかなりません。私は従業員エンゲージ

メントを重要な経営指標と捉え、従業員のみさんの声から目を背けず、真摯に向き合い改善していくことをお約束してきました。今年は従業員エンゲージメントスコアに確かな向上の兆しがみられ、社内のポジティブな変化を私自身も肌で感じています。先日、社外の方から「ロッチは社員同士の仲が本当にいいですね」というお言葉をいただき、大変嬉しく思いました。これは、多様な働き方の実現に向けた制度拡充や女性活躍の推進、男性の育児休業取得の促進をはじめ、LGBTQ+などあらゆる個性を尊重するダイバーシティ推進など、誰もが自分らしく能力を発揮できる組織風土づくりに地道に取り組んできたことが、着実に実を結び始めた証だと捉えています。

また、社会とつながりを持つことも企業にとっては非常に重要です。昨年は私自身が食育講師として実際に教壇に立ち、小学生に対して授業をする機会を持ちました。現場で子どもたちと対話する中で、我々の事業は、世代を超えて共通の話題となる貴重なものだと

改めて感じました。また、日々の業務とは異なる視点から、自社の事業が社会に与える影響の大きさと、商品の持つ真の価値を再認識することができました。現在の業務を継続しながら出張授業を行う食育兼任講師は、自分たちの仕事の意義や商品の価値を改めて実感できる非常に良い機会です。ぜひ多くの従業員に挑戦してみたいと願っています。

今後も社会と接点を持ちながら、ステークホルダーの皆さまとともに持続可能な成長と企業価値の向上に挑戦してまいります。引き続き、皆さまのご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長執行役員

中島 英樹



埼玉大学教育学部附属小学校
(さいたま市浦和区)で実施され
た食育出張授業の様子
(2025年12月)

私たちが考える「しあわせな未来」

私たちが考えるしあわせな未来は、人々が心身ともに健康で、
地球環境や社会と調和した持続可能な未来です。サステナビリティビジョンを実現し、
しあわせな未来をつくるため、創業100周年(2048年)までの目標を掲げました。
私たちのロッテ ミライチャレンジ2048が動き出しています。



しあわせな未来への道筋

6つのマテリアリティと目標（ロッテ ミライチャレンジ2048）は、
サステナビリティビジョンの実現を通じて、
パーパスで掲げるしあわせな未来につながっています。



6つの
マテリアリティ

ロッテ ミライ
チャレンジ 2048

創業100周年までに、未来のために実現したいこと

LOTTE Purpose



- ✦ 独創的なアイデアと
- 🌀 ころも動かす体験で
- 👤 人と人をつなぎ、
- ❤️ しあわせな未来をつくる。

サステナビリティビジョン



お客様の選択がしあわせな未来に
つながるようにブランドを進化させる



人と人をつなぎ持続可能な
地球を実現する



多様な人財が集い独創的な
アイデアを次々と生み出す会社になる

6つのマテリアリティ



心身の健康

これまで培ってきた「喰むこと」などの食と健康に関する知見やおいしさの技術を基盤に、新たな価値への挑戦を続け、人々のウェルビーイングに貢献します。



持続可能な調達

ステークホルダーとともにサプライチェーンにおける環境や人権に関する課題の解決に努め、持続可能なサプライチェーンを実現します。



サーキュラーエコノミー

原材料の調達から消費、廃棄までのバリューチェーン全体において環境に与える負の影響を最小化させるとともに、サーキュラーエコノミーの実現を目指します。



脱炭素

ステークホルダーと連携し、自社およびサプライチェーンから排出される温室効果ガスを実質ゼロにし、脱炭素を実現します。



社会とつながる

様々なステークホルダーとの共創や社外との交流を通じて、社会に貢献しながら従業員および組織の成長を図り、社会課題の解決を加速させます。

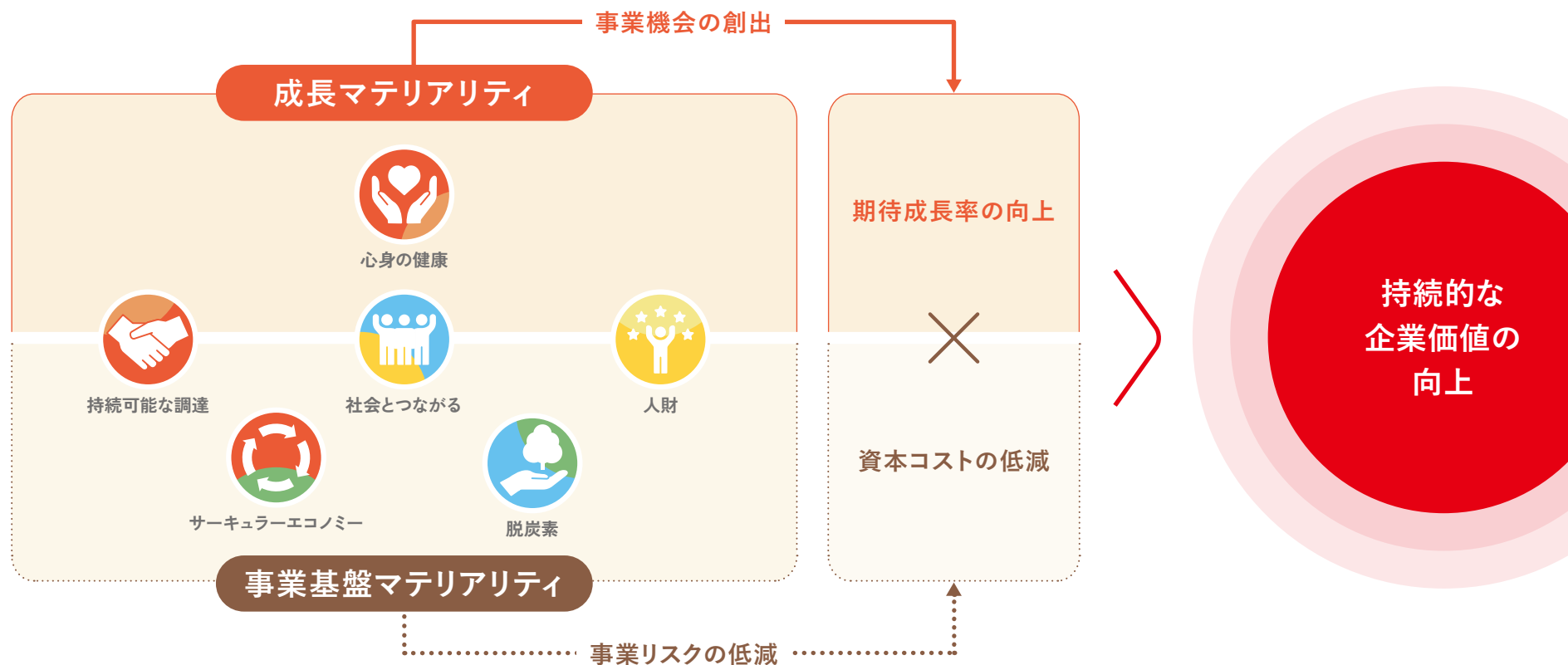


人財

企業競争力の源泉であるイノベーションを継続的に創出するために、DEIの推進や働きやすさと働きがいの向上に努め、多様な人財が働きたいと思える職場を実現します。

事業機会の創出と事業リスクの低減の 両面からマテリアリティを整理

サステナビリティ目標「ロッテ ミライチャレンジ2048」を構成する6つのマテリアリティは、各財務指標の向上と連動し、持続的な企業価値の向上につながっています。成長マテリアリティによる事業機会の創出は「期待成長率の向上」を、事業基盤マテリアリティによる長期的な事業リスクの低減は「資本コストの低減」をもたらします。この機会とリスクへのアプローチを通じてサステナビリティと財務を統合的に管理し、持続的な企業価値の向上を目指しています。



ロッテミライ チャレンジ2048

創業100周年までに、未来のために実現したいこと

サステナビリティビジョンを実現し、しあわせな未来をつくるため、創業100周年(2048年)までの目標を掲げました。この目標は、進捗や社会の変化に合わせて定期的に見直し、抽象的な目標を具体的にアップデートしていきます。



100周年目標

2048年度

90周年目標

2038年度

80周年目標

2028年度

現在の進捗

2025年度

*1 ロッテ サステナブルカカオ (LSC) : 農家までのトレーサビリティが確立されたカカオ豆のこと。LSCの調達先に対して、生産地が抱える課題への支援を展開している。

*2 Scope: GHGプロトコルに基づく排出量の算定範囲。

*3 アンケート対象者 2,919名、有効回答数 1,581件、食育活動等参加者数 330名
食育活動、食育以外のセミナー、地域・社会貢献活動を行った人数。

*4 エンゲージメント・レーティング: 企業と従業員のエンゲージメント
(相互理解・相恵相愛度合い)を表す指標評価段階はAAA~DDまで11段階。

*5 親会社である株式会社ロッテホールディングスを集計対象に含む。



お客様の選択がしあわせな未来に
つながるようにブランドを進化させる



人と人をつなぎ持続可能な
地球を実現する



多様な人財が集い独創的な
アイデアを次々と生み出す会社になる



心身の健康

- ウェルビーイングに貢献する新たな製品、サービス、事業領域でしあわせな未来をつくる



持続可能な調達

- すべての原材料で持続可能なサプライチェーンを実現する



サーキュラーエコノミー

- 容器包装に使用する石油由来使い捨てプラスチックをゼロにする
- ステークホルダーと連携して食品ロスおよび食品廃棄物(FLW)を最小化する



脱炭素

- カーボンニュートラルを実現する (Scope*2 1+2+3)



社会とつながる

- 社外との共創を個人および組織の成長につなげ、社会課題の解決に貢献する



人財

- 多様なグローバル人財が集い、活躍する職場を実現する

- 嘔むことによる健康増進が当たり前前の社会を実現する
- 製品・サービスをウェルビーイングに貢献できるようアップデートさせる

- 主要な原材料で持続可能なサプライチェーンを実現する

- 容器包装に使用するプラスチックを最小化、または、リサイクル可能な設計に変更する

- エネルギー起源CO₂排出量削減率 62%以上 (Scope1+2・2019年度比)
- サプライチェーンGHG排出量削減率 50%以上 (Scope3・主なカテゴリー)

- バリューチェーン全体の脱炭素やサーキュラーエコノミーの実現に一人ひとりが貢献する
- 経験やスキルを社会に還元し、社外での多様な経験を個人および組織の成長につなげる

- 男女間賃金格差を是正する
- 働きたい会社として社会に認知される

- 嘔むことによる健康増進の普及に努め、咀嚼チェックガムによるチェック回数を年100万回以上に増やす

- 調達するすべてのカカオ豆の生産地域把握と地域が抱える課題への支援 (ガーナ産は2025年度までに)

- 主要な製品で容器包装をアップデートする
- FLW 削減率 50%以上 (原単位、2019年度比)

- エネルギー起源CO₂排出量削減率 23%以上 (Scope1+2・2019年度比)
- 削減可能な一次データを用いたサプライチェーンGHG排出量算定を実現する (Scope3)

- 役員および社員の環境研修受講率 100%
- 社員の食育活動等参加率 20%以上 (株式会社ロッテ、期間中1回以上)

- 国内女性管理職比率 10%以上
- エンゲージメント・レーティング^{*4} A以上 (株式会社ロッテ)

- 咀嚼チェックガムによるチェック回数 54万回

- ロッテ サステナブルカカオ (LSC)*1 調達率 84% (うち、ガーナ産 100%達成)

- 部門横断のプロジェクトチームを組成し、容器包装をアップデートする製品を検討中
- FLW 削減率 24% (原単位、2019年度比)

- エネルギー起源CO₂排出量削減率 17% (Scope1+2・2019年度比)

- 役員向け環境研修実施
- 社員向け環境研修実施
- 社員の食育活動等参加率 20.9% (株式会社ロッテ正社員・嘱託社員へのアンケート調査^{*3})

- 国内女性管理職比率 9.1%^{*5}
- エンゲージメント・レーティング BBB (株式会社ロッテ)

